

令和2年 第11回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和2年11月19日(木)

2 招集場所 大河原町役場 執務室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 八島良隆、学校教育専門監 山家一博

5 開 会 午後2時

6 令和2年第10回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

舟山委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告について

報告第31号 障害児の就学措置に係る答申について

教育総務課長から説明する。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

(2) 専決事務報告

なし

8 議 事

なし

9 その他

(1) 教育長報告

大河原中学校中里寛校長先生が文部科学大臣表彰を名誉ある表彰を受賞した。

1 生徒指導

(1) 「空気を読む脳」(中野信子)

褒めることは本当に子供を育てることになるのかという実験を行った。3つのグループに分けて実験をした。1つ目のグループは頭がいいと褒めた。2つ目は努力の甲斐が

あって成果がでたと褒めた。3つ目はなにも言わなかった。その後次の課題の際、頭がいいと褒めたグループはやる気がなくなり、自分の能力にうそをつけて避けようとした。2つ目の努力の甲斐があったと褒めたグループは、挑戦欲があった。単に頭がいい、走る素質があるとか資質能力を褒めるのではなく、努力の過程を褒めないと本当に褒めたことにならない。これまでも具体的に、事実を確認して褒めることを先輩から指導されてきた。

(2) 令和元年度「児童生徒の問題行動・不登校調査（文科省）」結果

大河原町の学校の状況。全国的にいじめの認知件数、不登校の出現率が増加しているが、大河原町はいじめの認知件数小学校は微減、中学校は減少している。先生方が、神経を使い軽微なことを取り上げていじめを認知しようと努力している中で減少していることは良い傾向であると思う。不登校出現率、宮城県はワースト1位。大河原の中学校はマイナス5人で県の出現率を初めて下回った。先生方の努力だと思う。5人も減らすことは並大抵のことではない。しかし、小学校が非常に増えている。どの学年も増えている。6年生も多い。これまで病欠の子を精査したら、不登校だったということもあるが、不登校の対応について、小学校でも行っていかなければいけない。

(3) 「いい教師の条件」(諸富祥彦)

「欠席3日目夕方家庭訪問」で不登校が4割減する。県教委でも1日目は電話。2日目手紙。3日目に訪問との原則がある。3日目の夕方に訪問して促すと登校するようになる。在学青少年教育相談員の秀夫先生も協力することができる。

不登校の子に年賀状を出し続けた先生のエピソード。教師の存在感の大きさを物語るもの。高校1年から10年間だしつづけた。生徒は亡くなったが、その子の日記には先生とのやりとりばかりが書いてある。先生との関係性だけを大事にしていた。先生の存在感の大きさを物語っている。

2 地域学校協働本部・学校運営協議会

今年度から地域学校協働本部を生涯学習課で積極的に対応している。来年2月25日には宮城教育大学の野沢先生にきていただいて基調講演をしてもらう予定。来年度からの南小学校のコミュニティスクールに向けて車の前輪、後輪として進めていく予定。

(1) 地域ふれあい学びフェスティバルで、生徒が地域とつながる (玉置崇)

資料にある、生徒が地域とつながる、「地域ふれあい学びフェスティバル」は、南小学校のもがり祭りをイメージする。もがり祭りは大変である。コロナの影響で、もちつきや豚汁などをやめて合唱だけになった。地域の方が応援団になってお祭りをつくりあげていく、南小のお祭りの部分は地域の方が中心となって、街づくりの一つになっていけばよいと思う。おやじの会、キハト会、もがり会と学校支援団体がたくさんある、協力を得てイベントをつくりあげていくのが良いのではないかな。学校から地域に広がることで地域の人たちとの結びつきが強くなればいい。

(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設置までのスケジュール

11/5 に教育総務課と生涯学習課で全小中学校にコミュニティスクールを導入している登米市に視察に行った。どのような規則や、どのような方法で運営をしているか学んできた。

3 学力向上

(1) 令和2年度全国学力・学習状況調査『使ってみよう！学力調査』国立教育政策研究所教育課程研究センター

今年度初めて、過去問を活用して子供達の力を伸ばそうという資料が出たので紹介した。

(2) コロナ下で実現する「主体的・対話的で深い学び」國學院大學教授 田村学

なぜ、文章で書かせるのか。文章で書かせることの大切さが書いている。音声言語は、話題を広めることに適するが、その内容に曖昧さを含むことが多くある。一方、文字言語は音声言語よりも伝達に手間がかかるが、明確な表現になることで考えの自覚がしやすく、情報が蓄積され、共有もしやすいという特徴がある。振り返りや考えを整理するためには、「書く」ことが適している。

5 その他の写真

(1) 南小学校ペッパーによる防災学習「大雨」（大河原南小5年）

(2) 金ヶ瀬小「金小祭」

学芸会を例年通りちゃんと行っていた。

(3) 金ヶ瀬小指導主事B訪問

白石二小から移動してきた中野先生が楽しくやっていた。今年は入った和田先生が、自信をもってやっていった。

(4) 大河原中指導主事D訪問

高校からきた吉田先生。よりよい提案方法について勉強している。

若い佐藤先生。数学科の先生から指導をもらって流れはいい。いろいろ経験して大きくなっていくのではないか。

(5) 金ヶ瀬中「震災遺構の中浜小で備え学ぶ」

NHKの「てれまさむね」でも取り上げられた。命を守ることを生徒が身をもって感じたようだ。その後の避難訓練での態度が違っていた。

(6) 大河原南小指導主事B訪問

小西先生は自信をもって行っている。佐々木先生は2年目。大宮先生は、町独自採用の先生。習熟度別で下位の子を担当しているが、とても良い丁寧指導をしている。伸びるのではないか。新任の鈴木先生、去年は講師でいた。資質能力を持っている。自信をもってやっている。

(7) 金ヶ瀬小フリー授業参観日 全学級道徳の日

午前中持久走大会をやっていた。先生方、気合が入っている。

(8) インリーダー研修会

小学生 15 名、中学生、高校生も参加していた。いずれ、子ども会等で活躍して欲しい。

舟 山 委 員	先生方が幸せ。新任の先生が適切に評価されていて幸せ。
丹 羽 委 員	頑張った。努力した。が良いのではないが。親切にされるとうれしいが、与える側は3倍うれしい。
小 山 委 員	不登校が減ってよかった。休み時間になってもみんなで集まらない、掃除も一人が目立たないのでいい、と聞いた。
丹 羽 委 員	看護師の子供が悪口を言われると言っていた。誰もなりたくてコロナ感染者になるものではない。学校でも対応するようになるのか。
教 育 長	他の教育委員会では、犯人捜しになるようなこともあったと聞いているが、大河原町ではない。
一 盃 森 委 員	中野先生の褒めることについて。教育活動は、経験則で保護者や生徒に対応することが多いが科学的に実験され結果がでていることを生かしていくことが必要なのではないか。根拠のある教育活動を身に付けていくことが、欠けているのではないかと感じている。教育研修センターに行かせてもって感じた。裏付けがきちんとあることがわった。
丹 羽 委 員	研究者がこの子とこの子は伸びるといったそうしたら、本当に伸びた。先生が伸びるだろうと意識付けが大切ではないか。
舟 山 委 員	意識して褒めるようにした。お母さんは喜ぶ。保育園の先生にも話をした。褒めることはいいこと。中学生は見抜く。
小 山 委 員	具体的に褒めるということは、すごくいい先生だった。信頼が出てくる。

(2) 課長報告

教育総務課長

大河原中学校の建て替えについて。今後はパブリックコメント、住民説明会を開催する。

一 盃 森 委 員	イメージ図の縮尺が違うような気がするが。校舎の西半分は当初から暗い。
教 育 総 務 課 長	文書の作成時の貼り付けの問題。イメージ図の通りになる。
丹 羽 委 員	テニスコートは2年間使えなくなるがどうするのか。黒松は切ってもいいのではないか。移植してもその後の成長が難しい。
蜂 谷	大河原公園のテニスコートの利用ができるように調整をしている。グラントの片隅を利用したり、自転車通学を許可したり学校で検討している。
小 山 委 員	日当たりはどうか。
教 育 総 務 課 長	西日は日陰になる可能性はある。午後から日が当たらない可能性がある。校舎と体育館は14m離れている。いずれ、校舎のLED化も考えている。

丹羽委員 | ステージは、ふつうのステージになるのか。
教育総務課長 | 一般的なものです。

山家専門監

県の算数チャレンジ。各学校で行う。40チーム。金ヶ瀬小学校は5・6年生の半分が参加する。冬季休暇を1日延長し1月4日までにした。3学期の準備をする時間ができた。

生涯学習課

成人式は1月10日（日）に予定どおりに開催予定。受付10時30分からで1時に短縮して行う。写真撮影はマスクを外す。来賓は、教育委員、県議会議員、町議会議員。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回は令和2年12月18日（金）午後2時から開会を開催する。

11 閉会宣言 午後3時40分

令和2年12月18日

署名委員

署名委員